

中学生への接し方

鹿兒島市スクールカウンセラー なが た たいちろう 長田 太一郎



スクールカウンセラーの仕事を頂き、各学校を訪問して相談業務を行っています。よく相談の内容として、ゲーム機や携帯電話等の過度な使用により、昼夜逆転した生活を送り、朝起きれず登校できなかつたり、友達との関わり（なじめない・自己表現が苦手等）でトラブルになり、いじめに発展したりすることなどがあります。

子どもを健全に育てるためには、保護者はどのようなことに心がけて接すればよいのでしょうか。いくつか例を挙げてみたいと思います。

私たちが生活していく上で重要なことは、心身のバランスが保たれていることです。その中で、

子どもたちの心を安定させるためには、親が、我が子としっかり向き合っ
て会話をする時間を設けることが大切です。多忙で心にゆとりがなくなっている現在では、特に必要ではないでしょうか。

さらに、子どもを成長させるためには、まず、親が夢をもつことです。親が自分の夢を子どもに語るにより、子どもは自然に親の背中を見て育ち、自分の夢をもつようになることでしょう。

また、駄目なことは駄目とはつきり言わなければいけません。よく、家庭内で子どもが主導権を握り、親が子どもの言いなりになっているケースや、かけひきをして「○すれば○○してあげ

る」と言って、物を買いはず、物を買って与えているケースなどを聞くことがあります。良くない結果につながっていることが多いようです。

子育ては、大変だと思えますが、夢をもって子どもたちと向き合っ
てほしいと思います。

